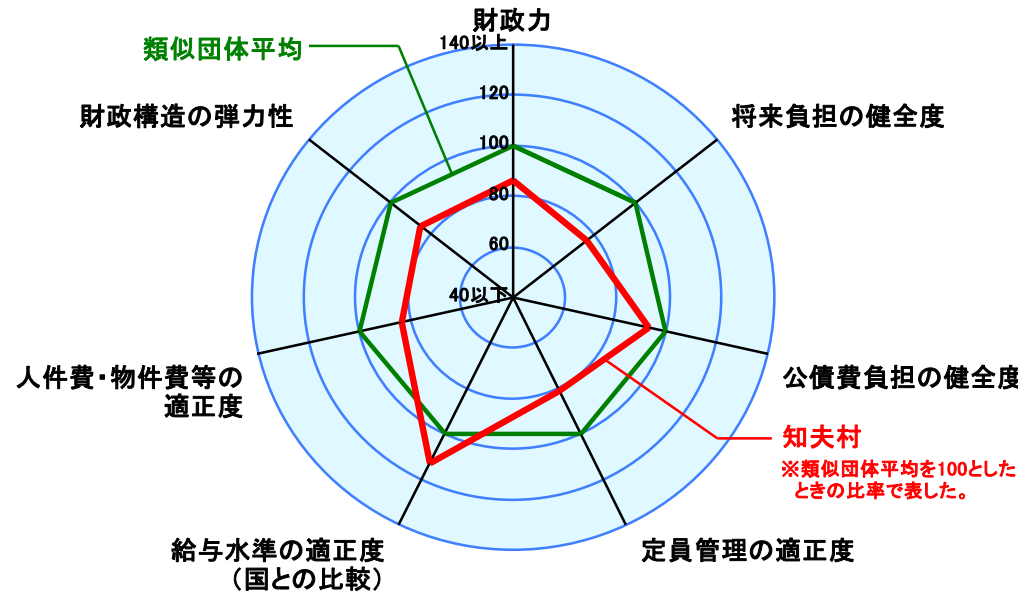
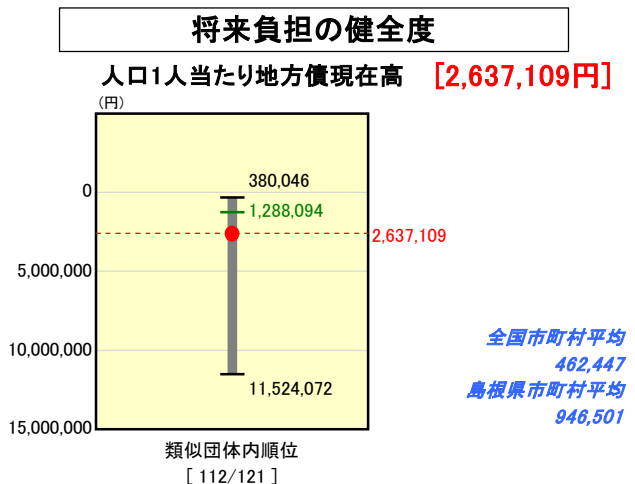
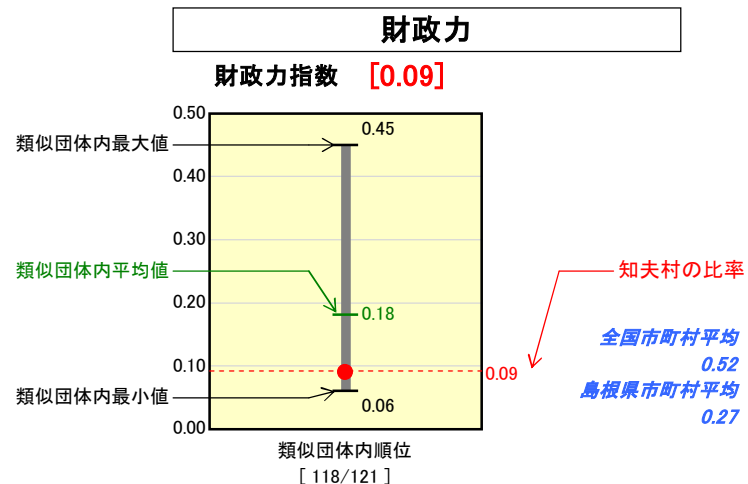


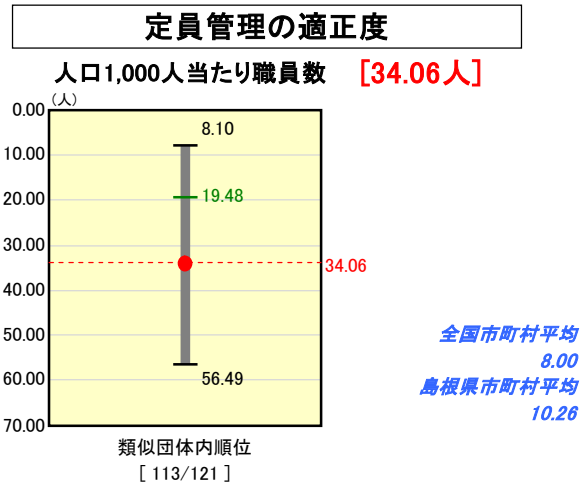
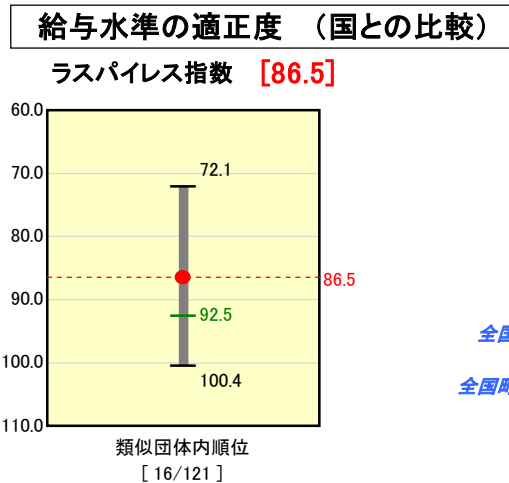
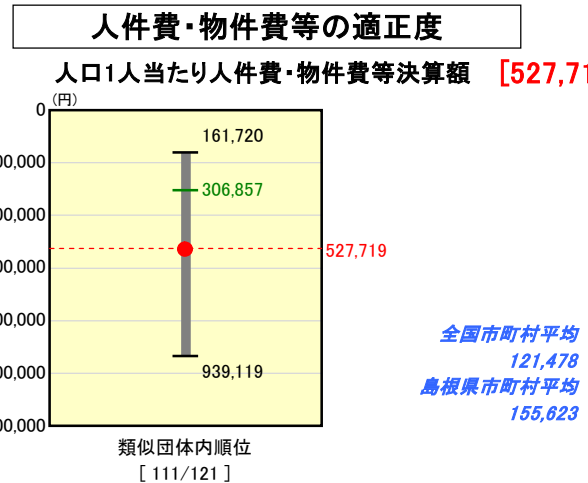
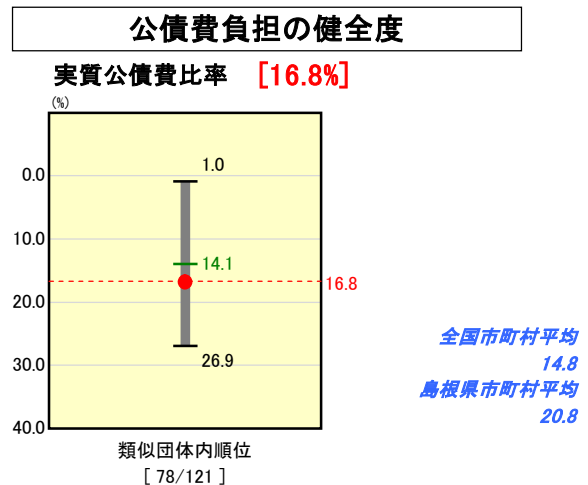
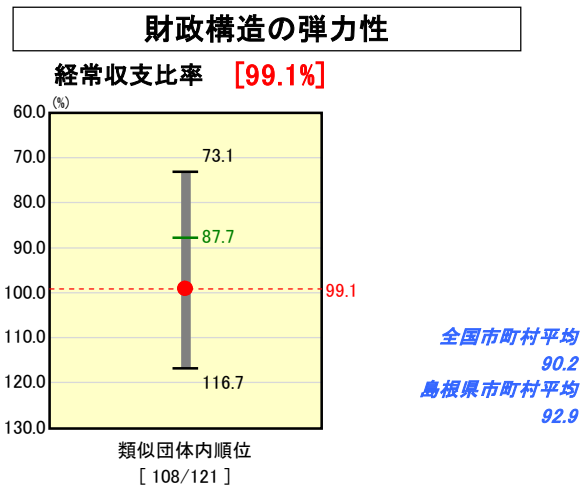
市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

島根県 知夫村

人口	734人	(H18.3.31現在)
面積	13.70	km ²
歳入総額	1,104,427	千円
歳出総額	1,072,490	千円
実質収支	28,306	千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】
税の徴収率は常に100%を維持しているが、小規模な離島の村であり、法人関係の税収もほとんど無く、個人の税収も高齢化、後継者不足による産業の衰退等により、年々減少しているため、人件費カット、職員の不補充、物件費の抑制等、徹底した歳出削減に取り組んでいる。

【経常収支比率】
本村の歳入に占める地方税は僅か4%であり、このことも経常収支比率の高い要因である。今後は地方税の増収を図るために定住対策、産業の振興を進めるとともに、集中改革プランを着実に遂行し、経常経費の削減につとめる。

【実質公債費比率】
大型建設事業の償還が平成16年度までに終了したが、今後は減債基金等で高利な起債の繰上償還の実施を行い、比率の低減に努めたい。一方、下水道の償還が平成22年度をピークに増加傾向にあることから、適正な使用料の徴収及び世代間の負担の公平化を図るため平準化債等も検討し、適正な水準を維持したい。

【人口1人当たり地方債残高】
類似団体平均に比較して2倍強となっているが、過疎債、辺地債といった後年度に交付税措置される地方債の割合が高いことや、学校、保健センター、庁舎等の償還も順次終了したので、減少する見込である。今後は緊急度、住民ニーズを的確に把握した事業の選択により、安易に起債に頼ることのない財政運営に努める。

【ラスパイルズ指数】
平成15年度から給与カット実施により、類似団体を下回っており、今後もより一層の適正化につとめる。

【人口1,000人あたり職員数】
類似団体を上回っているが人口1,000人あたりの職員数は、ここ数年退職不補充等により減少しているところであり、今後もより適切な定員管理に努める。

【人口1人当たり人件費、物件費等決算額】
類似団体平均を上回っているのは自治体の規模が極めて小さく、民間委託の受け皿が少なく行政コストが増大していることも要因していると思われる。一方、維持補修は職員が自ら実施しており、近年全く費用はかかっていない。今後は民間でも実施可能な部分については、指定管理者制度の導入などにより、コスト低減を図っていく方針である。